

平成二十五年度 高校生世代「人権の詩」
【入選】

明日への一歩

人に嫌われたあの日から
私は泣いている
ずっと、心の中で泣いている
自分に自信が持てなくなった
相手に遠慮して
言いたいことが言えなくなった
友達を作ることが 下手になった
みんながうらやましい
普通に仲良くしている様子が
うらやましくてしょうがない
「私にもそんな友達ができたらな」
そんなことも思った
でもね？そんな悩みを打ち明けたら
「もっと話そうよ！」
「うちらをもっと深く知っていこう！」
そんな明るい言葉を私にくれた
だから思ったんだ
嫌われたから嫌うんじゃない
嫌われた分 誰かに手を差し伸べようと
これからずっと
だれかのために何かをしようと
そう思えたんだよ
だって こんな痛みがなかったら
友達から救いの手を差し伸べられることも
誰かのために動こうとも
考えなかっただろうから
みんな ありがとう
私の手を握り返してくれて ありがとう
誰かのことを考えられる力をくれて
ありがとう
たくさんのありがとうを ありがとう